

乳房再建

乳がんの手術によって失われた組織を、人工物または体の一部を使って出来る

限り元の形に近づけるための手術を**乳房再建**

と呼びます。



乳房切除後、再建を希望しない患者さん、

再建手術はしなくても補正下着やパッドなどを使用し皮膚の上から乳房の形を

整える患者さん、再建を希望する患者さんなど、**選択肢は様々**です。

ここでは、再建手術がどのようなものなのか 簡単に説明します。

再建手術に興味のある患者さん、迷っている患者さん

はお気軽に外来でご相談ください。



乳房再建の時期

乳がんの切除と同時に再建手術を行う**一次再建**と、乳

がんの治療が落ち着いてから再建手術を行う**二次再建**があります。

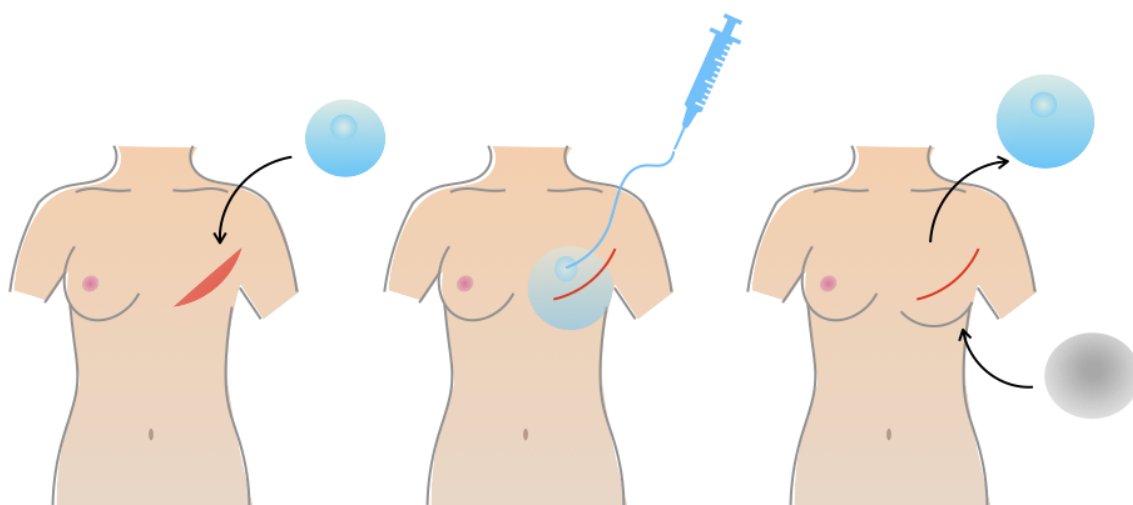
一次再建の利点は、**乳房がない状態を過ごさなくて済む**ことです。

二次再建の利点は、まずは**乳がんの治療に専念**し、再建についてゆっくり考える時間があるという点です。

乳房再建の種類

人工物（インプラント）を用いる方法と、自家組織（背中やお腹の皮膚・脂肪・筋肉）を用いる方法とがあります。

● 人工物（インプラント）を用いた再建



人工物（インプラント）を用いた再建では、通常 **2 回の手術** を要します。

初回手術ではインプラントを入れる部位の皮膚を伸ばすためにティッシュエキスパンダーという丈夫な **水風船のようなものを埋めて** 皮膚を縫い閉じます。

その後 **2～4 週間毎に外来通院し**、ティッシュエキスパンダーに生理食塩水を少しずつ注入して膨らませていきます。

半年間 程度行うのが一般的です。

皮膚が十分に伸びたら、**後日インプラントに入れ替える手術** を行います。

利点

- ・身体的負担が小さい
- ・手術時間・入院期間が比較的短い
- ・体の他の部分に傷を作らなくて済む
- ・早期の社会復帰が期待できる

欠点

- ・最低 2 回の手術が必要である

- ・乳房の下垂や動きはあまり期待できない
- ・乳房上部の自然な膨らみは出せない
- ・感染した場合、人工物を取り出す必要がある
- ・拘縮の可能性がある
- ・10～15年で入れ替えの必要がある

入院期間

ティッシュエキスパンダー、インプラント共に **7～10** 日前後です。

注意点

術後、血液を体外に排出する管を挿入します。その管が抜けるまでは創部を濡らせません。

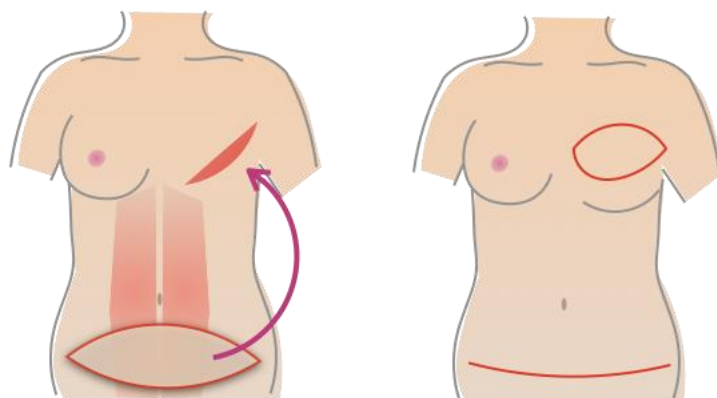
術後早期より歩行などは可能です。

術後1ヶ月程度は腕を高く上げる動きや、激しい運動は控えましょう。

● 自家組織を用いた再建

背中中の筋肉・脂肪・皮膚を用いた「**広背筋皮弁**」や、下腹部の脂肪・皮膚（一部、筋肉含む場合があります）を用いた「**腹直筋皮弁**」「**深下腹壁動脈穿通枝皮弁**」などがあります。

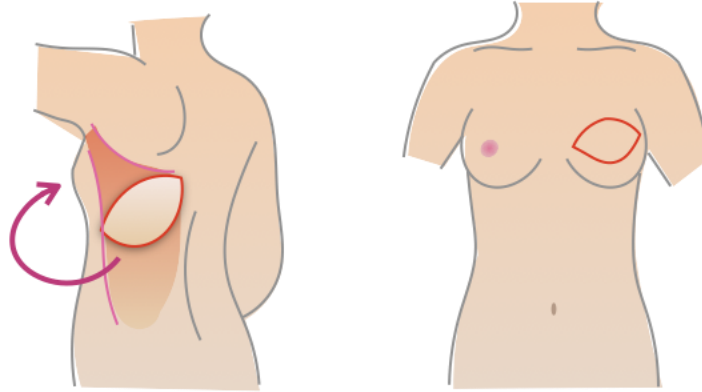
① 広背筋皮弁



背中中の筋肉・脂肪・皮膚を血管がつながった状態で乳房側に回して再建します。

乳房の**部分切除後**や、もともと**あまり胸が大きい人**には良い適応です。

② 腹直筋皮弁・深下腹壁動脈穿通枝皮弁



腹直筋皮弁では下腹部の脂肪・皮膚と一部の筋肉を血管がつながった状態で乳房側に回して乳房再建します。

遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁では血管を一度切り離し、顕微鏡を使って胸の動脈につなぎ直します。

下腹部は背中と比べると脂肪が豊富なので比較的胸が大きい方に良い適応です。

組織を取った部分には長い傷跡が残ります。

後日の出産希望がある方はこの手術を受けられません。

利点

- ・人工物を用いずに再建できる
- ・ある程度の下垂や動きのある再建が可能（複数回の手術が必要な場合あり）
- ・乳房上部の膨らみもある程度作れる

欠点

- ・身体的負担が大きい
- ・術後数日間はベッド上での絶対安静が必要（歩行不可）
- ・手術時間・入院期間が長い
- ・再建のために体の他の部分に長い傷ができる
- ・皮弁壊死の可能性がある（特に喫煙をする方）

入院期間

広背筋皮弁 7～14 日程度、腹直筋皮弁・遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁 10～14 日程度です。

注意点

数日間はベッド上安静のためシャワーや入浴ができません。

7～14 日後に抜糸をするまではシャワー浴のみ可能です。

その後の傷の状態に応じて入浴が可能になります。

退院後も 1～2 ヶ月は激しい運動や傷を伸ばしたりするような動きは控えましよう。